



みんなの力でみんなの幸せを

s a w a r a b i

さわらび

2 細胞の生と死の絡繰り—生者必衰の理を知る

◆元厚生省自己免疫疾患研究班病因分科会長 金井 芳之
福祉村老人保健施設ジュゲム所長
東京大学客員研究員・元助教授

8 特集 高齢者の孤独死・虐待を防ごう!

2010
vol.452

12



医学講話

細胞の生と死の絡繰り 一生者必衰の理を知る

●元厚生省自己免疫疾患研究班病因分科会長
福祉村老人保健施設ジュゲム所長
東京大学客員研究員・元助教授 金井 芳之

拍車を煽る傾向も否めない。

た点で営利目的の「がん産業化」へ

ような文言で治療法や、診断法といっ

では難治性のがんでも恰も完治する

せているようにも感じられる。一方

う件があり、偏にがんの恐怖を募ら

来には二人に一人ががんで死ぬと言

ろ、がん患者は増加の一方で、近未

特集していたので通読してみたところ、

たまま週刊誌「東洋経済」が、がんを

しい進歩によるところが多い。たま

境衛生や食料事情の改善、医学の著

たということは、地球温暖化が指摘

ととは自然の理である。高齢社会になっ

従ってがんの高齢発症が多くなるこ

が、当時との大きな変化は、現在

現在もその傾向は基本的に変わりな

いが、高齡社会になっていくことである。

が、高齡社会になっていくことである。

が、高齡社会になっていくことである。

驚いたりもした。

あることを知らなかったので少し

研究部長であつても正規の名称が技官

省)では平の研究者であつても、研

であつた故、厚生省(今の厚生労働

された。まだ世の中を知らない若僧

に入門、ややあつて厚生技官に採用

がんセンター研究所の「生化学部」

る基礎医学を選考、東京築地の国立

思い新たに病気の発症機構を解明す

を診る臨床医をやつていたが、

生は医師になつて暫くは病人

小

の示す如くがんセンター研究

所はがん発生の機序の解明、

そして其れを基にがん治療薬を開発

するのが錦の御旗であるから、専ら

がんに研究が集中していた。小生は

幸か不幸か、其処から少し距離を置

いた。純粋に近い生化学の研究に

没頭できたのである。とは言え遺伝

子DNAの基で創られるがん関連物

質が対象であつたから、遺伝子の突

然変異や紫外線によるDNAの損傷

とその修復、および正常の遺伝子に

よつて創られる蛋白質の修飾(この

現象は現在では“epigenetic modifi-

cation (EM)”と呼ばれていて、

ひとのゲノムの全解明が終了した現

THE JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY
Vol. 249, No. 20, Issue of October 15, pp. 6105-6111, 1974
Printed in U.S.A.

Studies on *in Vivo* Degradation of Rat Hepatic Catalase with or without Modification by 3-Amino-1,2,4-triazole*

(Received for publication, February 14, 1974)

YOSHIYUKI KANAI AND TAKASHI SUGIMURA

From the Biochemistry Division, National Cancer Center Research Institute, Chuo-ku, Tokyo 104, Japan

TAIJIRO MATSUSHIMA AND AKIYOSHI KAWAMURA

From the Department of Molecular Oncology, and the Department of Immunology, the Institute of Medical Science, University of Tokyo, Minato-ku, Tokyo 108, Japan

SUMMARY

The degradations of modified and unmodified catalase in rats *in vivo* were compared. Catalase (EC 1.11.1.6) was

tion in regulation of metabolism (1-5). An interesting problem in this connection is whether inactivated or modified enzymes are more prone to rapid degradation *in vivo* than native enzymes.

最

近著名人が「がん」で死亡す

る報道が相次ぎ、マスコミの

話題となつてゐる。統計かつ科学的

話は抜きにして、平均寿命に比べれ

ば遥かにがん死亡年齢が若いように

思われる。小生が医師になりたての

頃、30〜40歳で発症するがんは悪性

で予後が悪いが、高齢発症の場合は

比較的予後が良いと言われていた。

現在もその傾向は基本的に変わりな

いが、当時との大きな変化は、現在

が、高齡社会になっていくことである。

が、高齡社会になっていくことである。

が、高齡社会になっていくことである。

小

生は医師になつて暫くは病人

を診る臨床医をやつていたが、

思い新たに病気の発症機構を解明す

る基礎医学を選考、東京築地の国立

がんセンター研究所の「生化学部」

に入門、ややあつて厚生技官に採用

された。まだ世の中を知らない若僧

であつた故、厚生省(今の厚生労働

省)では平の研究者であつても、研

究部長であつても正規の名称が技官

であることを知らなかったので少し

驚いたりもした。

発

在の新課題として再注目されている

が研究の中心であつた。その意味で

はDNAの研究はゲノム以前に既に行

われていたのである。ある意味では

皮肉とも言える。

がんと同時に考えが及ぶのが、

ひと(生物)は何故老化する

のだろうかと言ふ疑問である。当時

の小生の師匠であつた文化勲章受章

者S先生は「老化」とはDNAのファ

イデリティー、つまり遺伝子の構築

が乱れその機能が発現できなくなる

ことと、生体で不用になつた蛋白質

の分解・排除機構の破綻ではなから

うかと言つておられたのを今でも鮮

明に思い出す。今思うと両者は車の

車輪の如くで、遺伝子機能が劣化す

れば質の悪い蛋白質が量産されるこ

とになる。しかしこれらの不用蛋白

質を排除する良質な蛋白質分子、つ

まり蛋白質分解酵素のことで、それ

が機能していれば細胞は健康に保た

れることになる。生体内で不用になつ

た蛋白質が蓄積すれば細胞は死に追

い詰められるのだ。DNAに損傷の

ない健康な細胞は不用になつた蛋白

質をいち早く生体内で分解処理され

ることを、幸いにもカタラーゼとい

う酵素を用いた実験モデルで証明することが出来た。その成果は1974年に世界トップクラスの「SC」と言う学術誌に掲載された(題名記事)。

しかし、それは現象論であって認識機構の解明には至らなかった。失活した蛋白質を分解系に知らせるシグナルは翌年外国のグループによって発見され、それが現在知られているユービキチンと言われている分子で、彼らはその業績でノーベル賞を受賞した。残念でないと言えは嘘になる。

さて、それでは機能を失った細胞はどのようにして処理される

のであろうか?これも失活蛋白質と同様にデスシグナルと呼ばれる標識を細胞表面に発現し、それを認識する受容体を持った貧食細胞によって計画的に排除されることが20年ほど前に明らかにされた。これはプログラムされた細胞の死と言うことで、事故的に死ぬ細胞つまり懷死に対してprogrammed cell deathと言われ、現在ではapoptosis(アポ(プ)トーシス)として世界共通用語になっていく。語源はギリシャで、apoは離れる、ptosisは(隙が)垂れる又は落ちる意味で、葉が外見を保ったま

ま幹から落ちる様を表した合成語である。余談ではあるが、アポптоーシスと言う用語は極めてロマンチックな響きと哀愁が漂う小生の好きな言葉である。

ユ

ービキチン化もアポプトーシスも巧く活用すればがん細胞の攻撃にも使えるし、リウマチ性疾患の治療にも活用出来る。リウマチ性疾患では既に一部が臨床応用されている。小生は所謂「変人」で「がんセンター」に居ながら研究の興味は専ら「自己免疫疾患」で、所属も東京大学医科学研究所に入職、爾来約30年の永きに渡って自己免疫現象の研究に没頭し、七年前に退官を迎えた。

福

祉村病院に赴任して予想すらとりわけアルツハイマー病の病態を勉強する機会を得て驚かされたのが脳内に生じる「老人斑」(CD)と「神経原性繊維変化」(NFT)である。NFTはリン酸化されたニューロフィラメントと同じくリン酸化されたタウ蛋白質が不溶性になり神経細胞内で嗜銀性の封入体となったもの、そしてCDは特にAベーターと呼ばれるアミロイド蛋白質の前駆体から創

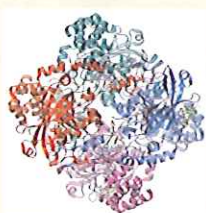
られるもので、前者と違って細胞外に沈着する。興味あることに、この「CD」複合体の一部に前述の蛋白質分解酵素の阻害物質が含まれていることである。前述のリン酸化タウ蛋白質の脱リン酸に関わる脱リン酸化酵素の阻害物質も含まれていて、CDの進行に関わっている可能性が高い。これらの阻害物質を抑制出来る薬剤が脳内で巧く働けばCDの発症、将又進行を遅延させることも可能かもしれない。所詮生体の健康とは生体内物質の合成と分解の調和で成り立っていると言えよう。

一方で脳は「免疫聖域」とも言われ基本的には免疫担当細胞

と称されるCD細胞や本来のマクロファージが侵入出来ないので、変性蛋白質の免疫応答による排除もままならないのである。最初の項で述べた変性神経細胞のアポプトーシスや懷死細胞の適切な処理が成されれば、ニューロンの消失が最小限に抑えられ、なおかつニューロトロピンのような神経細胞増殖因子の供給が巧く出来ればAD治療が期待出来る時代が来るかもしれない。

さ

て再びがんに戻るが、近々二人に一人ががん死すると言われているが、医学の未発達時代に感染症や慢性疾患、あるいは栄養失調で死亡し、がん死は目立たなかったのである。長寿時代到来で病氣としてのがんが生き残っただけで、いたずらにがん死を恐れる必要は無いのだ。発がんは遺伝子の老化の成れの果てで、それらを生体が早期に探知してDNA分解酵素等で早期に除去出来れば、理論上がんの発症は防げることになる。それらの生体防御機構を迂回して生き残ったがん細胞が、一時期がん細胞繁栄時代を築くのだ。かくの如く繁栄したがん細胞とさえども、最後はそれらを保養していたホストも絶え、生体・個体の生命の終焉となるのだ。正に人生劇場、「生者必衰の理を知る。」である。わりにCDのような変性疾患も自己免疫疾患も、さらにはがんまでもが生体分子の合成と分解のバランスの破綻の結果生ずると言えるかも知れない。



カタラーゼ

福祉村病院 先端医療担当副院長

岡田 秀親

【厚生労働科学研究費補助金の交付】

敗血症（セプシス）に陥ると三割の患者さんは救命できないのが現状です。

セプシス患者さんを救命するペプチド剤は、炎症反応を起動するアナフィラトキシンに結合してその活性を抑える作用を発揮します。十五年ほど前に福祉村病院にハンガリーから来ていたラジヨス博士とカナダから来ていたキャンベル博士の協力で開発したペプチド剤設計プログラムを用いて、アナフィラトキシンに反応する相補性ペプチドを作りだしました。セプシスを救命する相補性ペプチドが実用化できれば、私どもの

相補性ペプチド設計理論の立証になり、ノーベル賞が来てもおかしくない新技術理論と評価を受けると期待しています。

しかし、なぜ相補性ペプチドが実際に反応できるのかを物理学的に証明することが大きな課題として残っています。そのためには、有能な物理学者の協力が必要ですので、若手の物理学者の研究会などにも出席して、人材探しを行っています。特に、黎明期が慈始まった「ゆらぎ研究」のグループに期待を持っています。

敗血症の患者さんを救命するためペプチド剤の開発に厚生労働省から助成金を頂いており、平成二十年度、二十一年度、本年度は三年目での交付金が九月末になってやっと決定しました。厚生労働省が、私どものプロジェクトの重要性を高く評価して頂いた結果だと思っています。

年間十万人もの子供や壮年者の命を奪うセプシスから救命するペプチド剤の開発を成功させる為、本年度中に、安全性試験を完了し、次年度

には患者さんでの臨床治療効果を医師主導型臨床試験で明らかにする予定です。臨床試験は、名古屋市立大学病院と藤田保健衛生大学の集中治療室（ICU）で実施する計画です。福祉村病院でも実施できる可能性を検討しています。

民間病院でこれだけの研究助成金を厚生労働省から頂いているのは、福祉村病院長寿医学研究所だけです。その貴重な研究費で成果を挙げて、患者様の健康回復に役立ちますよう努力しております。

●就任報告



赤津裕康先生が滋賀医科大学准教授に就任されました。

任期は平成二十四年三月三十一日までです。



福祉村保育園だより



子どもたちの言葉のやりとりもとても上手。楽しいハロウィンパーティーになりました。



福祉村の紅葉

あかにオレンジにきいろのはっぱ、きれいだねー！またきたねー！

◎ドクター紹介

豊田 哲也先生

Dr. TETSUYA TOYODA



10月から、新しく福祉村病院へ赴任されました、豊田哲也先生を紹介致します。

豊田先生は、長寿医学研究所において、感染症についての研究をされ、1病棟1階を担当されます。
よろしくお願い致します。

生年月日 昭和33年2月2日（水がめ座 AB型）

学 歴 名古屋大学医学部卒業（昭和57年）
名古屋大学大学院卒業（昭和62年）

専 門 ウイルス学



経 歴

豊川市で生まれ、高校卒業まで豊川におりました。大学院卒業後、働くところを求めてアメリカにわたり、その後、国立遺伝学研究所（静岡県）、久留米大学医学部（福岡県）、上海パスツール研究所（中国）と各地の研究領域を回ってきました。今年の9月で契約が切れたのを機会に、年老いてぼけてきた両親の面倒をみて、見送るために、ほぼ30年ぶりに豊川に戻りました。この度、福祉村病院院長の小橋先生を頼って当病院に勤務させていただくことになりました。

趣 味

特にありませんが、ゴルフハンディ20、中級ダイビングライセンスを取得。これから大型バイクの免許を取る予定。

福祉村病院の印象

長寿医学研究所の最先端の設備と、血気盛んな大先輩方にお目にかかり、最初は上海の学生にやらせる予定だった研究を立ち上げたいと思いました。

仕 事 へ の 抱 負

上海に行く前に研究から引退した3年間、老人保健施設を全国展開しているグループの病院で、老人のお世話をさせていただきましたことを経験に老人のお世話をさせていただきながら、感染症の治療の研究を立ち上げたいと思います。久留米でも上海でも、現地の食が合わず、自炊をしておりましたので、料理には自信があります。

七五三のお祝い会 野依の八幡神社に
七五三のお参りにいって来ました。



元気にすくすく育ちますように……
子どもたちが

福祉村のまわりをお散歩



「特別養護老人ホームにおける介護職員等による痰の吸引等の実施のための試行事業」受入れについて

～特別養護老人ホーム さわらび荘～

本年四月より「特別養護老人ホーム等における介護職員の医行為」は一定の条件下にて、痰の吸引と胃ろうの一部が可能となりました。しかし、これは「違法性の阻却」にすぎず、実施要件も煩雑なものです。その中、「医療行為」の中で、家族が実際家で行っているものは、医療行為から切り離し、一定の管理下においては介護職員にも行えるようにすべきとの議論が高まってきました。

そこで、厚労省の公募事業で全国老人福祉施設協議会の主催で見出しの試行事業が実施されることになりました。これは「違法性の阻却」ではなく、「介護の業務の一つ」として介護職員が痰の吸引や経管栄養の一部が出来る様にモデル事業を実施し、評価、ケアの検討を実施した上で法制化されるように国に提言していくものであります。

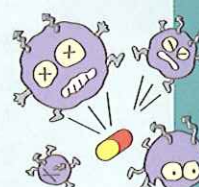
全国八箇所の実地研修施設に「さわらび会」が選ばれ、協力していくことになりました。(長坂)

「感染予防対策について」の勉強会を開催

～福祉村病院～

10月13日

今年も株式会社
社リブドゥコー
ポレーション名
古屋営業所リフ



レサポーター山本正子先生を講師に迎え「感染予防対策について」の勉強会を開催しました。

感染防止のためには感染源（病原体）を「持ちこまない」「持ち出さない」「拡げない」ことが最も大切で、その為に「手指衛生」や「個人防護具の確実な着脱」、「感染力の強いノロウイルスの嘔吐物などの感染源を拡げない処理」、「S字一方向拭き」などパワーポイントや実演を交えて学びました。壁や椅子の下など飛び散った場所など、目の届かない場所にも注意を払い二次感染を起こさないようにしなければと思いました。これからの季節、インフルエンザやノロウイルスなど、より一層感染症に注意し、患者様が健康な毎日をごせるように頑張っていきます。

(白井美)

白珠地域交流～平川本町防災訓練参加～

～グループホーム 白珠～

11月13日（土）平川本町住民会館にて、防災訓練が開催されました。

当日は入居者の皆様と職員も参加しました。起震車に乗り地震体験や、煙からの避難体験をし、消防署員による説明と指導を受けました。

地域の皆様と防災について考える良い機会とさせていただきました。(村田)



接遇向上委員会～地域の皆様と交流を～

～特別養護老人ホーム さわらび荘～

さわらび荘では、今年の四月から、まずは職員同士の挨拶を励行するために、接遇向上委員会を立ち上げました。

挨拶の大切さに対する意識が高まり、挨拶を通して、地域の皆様との交流を図る目的で、施設周りの清掃活動を始業前に行うように致しました。

今後も皆様に、ご満足いただける対応ができるように、活動していきます。(加藤)



さわらび織り常設展示・販売コーナー開設

～福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね～

昨年の6月から毎週水曜日の午後、ボランティアの藤井さん、沖さん、夏日さんの指導でさわらび織り教室を始めました。現在は6台の織機に8名の利用者さんが思い思いの糸で反物を織り上げています。その反物から作られた帽子、バック、ティッシュケース、携帯ケースやランチョンマットなど、自分たちだけで楽しむのではなく、皆様にも使っていただこうと、常設の展示・販売コーナーをしろがねの玄関に設置しました。売り上げはすべて材料費になってしまいますが、皆さんに使っていただく喜びをみんなで味わっています。（石黒）



珠藻荘家族会の実施

～障害者支援施設 珠藻荘～

11月13日（土）、第3回家族会が行われました。今回の主な議題として珠藻荘が実施している各委員会活動報告をさせていただきました。

各委員会活動は、「よりよい暮らしの実現」「利用者の安全、安心」というテーマを目指すために月1回行われ、また利用者主体の考え方から各委員会会議に出席をしていただいているという報告を行いました。珠藻荘家族会も家族の高齢化等により会員の方も段々と世代が変わってきています。そこで、今回、ご家族に処遇に関する内容でアンケートを実施しました。この結果を今後の施設運営に生かし、「みんなの力でみんなの幸せを」の実現を目指してゆきます。

（田中）



海岸清掃を通じてのふれあい

～あかね荘障害者生活支援センター～

十月十九日伊古部海岸表浜にて、豊橋南高校の生徒さんと今回で三年目になる海岸清掃を行いました。この活動は、利用者さんと高校生の皆さんとのふれあいを通し地域との交流を深めることや、海岸のクリーン活動で環境の大切さを覚える事を目的としています。

生徒さんも、この行事を非常に楽しみにして下さっているようで、先生からは「参加希望者が多くて、バスの定員もあるので制限させて頂いているほどです。」と嬉しいお言葉も頂きました。今後も障害者への理解、地域行事への参加を通してボランティアの育成を推進していきたいと思っています。（鈴木巳）



年末・年始のお楽しみ

～障害者支援施設 あかね荘～

入所利用されている方の一番の楽しみは「家へ帰る」こと。皆さん盆や正月の帰宅で、ご家族と一緒に過ごすゆつたりとした時間を心待ちにされております。

「楽しかったよ。」「お餅食べてきたよ。」と、帰宅前より少しふっくらした笑顔で教えて下さいます。

しかし、あかね荘開所当時（昭和五十七年）二十八歳だった利用者平均年齢は、平成二十二年には四十三・九歳。親御さんも高齢になり、年末年始にゆつくり帰宅できる利用者の方は少なくなりました。

そこであかね荘では、「ご家族参加の餅つき大会」や「忘年会」を企画しています。新年も「職員手作りのおせち」を囲んでの新年会を開き、皆さんで賑やかに過ごします。こうしたことなどにより帰宅が難しくなった方にも、年末年始を楽しんで頂けるよう工夫をしています。（高橋）



高齢者の 孤独死・虐待を防ごう!

近年「孤独死」という悲しいニュースを耳にします。

先日も、一人暮らしの高齢者の方が自宅のキッチンで白骨化した遺体で見つかり、死後三年が経っていたというニュースがありました。その方の家賃は、銀行口座からの自動引き落としになっていたため、預金がないままに死んでしまったという事実が、底をつくまで誰も気付かなかったという事実でした。

「孤独死」は、特に一人暮らしの高齢者が誰にも看取られずに自宅で死亡し、死後しばらくしてから発見されるような場合に使用される言葉があります。

「孤独死」という言葉は、特に阪神淡路大震災以降にメディアに取り上げられることが増え、高齢化社会の進む日本の中で、大きな社会問題となっています。

現状

近所や地域との関わりの少ない都市部では、高齢者が死後数日から数ヶ月経ってから発見されることがある一方、現在では、都市部に限らず過疎地域での発生も懸念されています。

「孤独死」は都市部では地域コミュニティが希薄な地域に多いとされ、また災害によって地域コミュニティが分断されている場合にも発生しやすくなっています。過疎地域においては、隣家が遠く変化に気づきにくい場合もあります。

「孤独死」が起こりやすい要因として、少子高齢化社会、独身男性の増加（配偶者との死別を含む）、親族が近くにいない、慢性疾患を持っている、アパートなどの賃貸住宅に住んでいる等があげられます。子ども夫婦も核家族向けの賃貸住宅に住んでおり、高齢者本人も迷惑がかかるからと遠慮して一人暮らしを選択する方もみえ、潜在的な孤独死予備軍は年々増加傾向にあると考えられます。



高齢化社会

豊橋市においても、少子高齢化社会は確実に進んでおり、また核家族化が進む中、六十五歳以上の一人暮らし高齢者の数は一三、〇〇〇人強を数えるまでになっています。

高齢者世帯をみると、総世帯数十三七、〇〇〇戸のうち、六十五歳以上の一人暮らし世帯は一三、三〇〇戸、夫婦世帯は一〇、四〇〇戸で、この五年間にそれぞれ三十三%も増加し、総世帯数の増加率三%を十一倍も上回っています。

課題と対策

現在、地域に住む高齢者の実態を把握するために、行政や自治会、老人クラブ、地域包括支援センター、ケアマネジャーなど様々な方面からアプローチがされています。しかし、そのアプローチが不十分であり、網の目からこぼれおちる方々が顕在化しています。

その最たる原因は、それに関わる人及び機関における情報の共有の欠如であると思われます。その根本的な背景には「個人情報保護法」によ

り必要な情報が出せなくなり、その影響で情報を出さない風潮が高まったために、行政だけでなく各関係機関が情報を共有しにくくなったという現状があります。

地域包括支援センターでは、関係機関との連携を図るため、介護保険事業所や行政、医療機関に呼びかけて、「圏域ケア会議」を各センターごとに年間二回開催しています。厚生労働省も次期介護保険制度改革のキーワードとなる「地域包括ケア」に関連し、地域内の各関係者を集めた「圏域ケア会議」の招集権限を地域包括支援センターに持たせる方針を示しました。

地域の見守りを充実させるため、従来から行っている自治会、民生委員や地域包括支援センターの機能の再構築、地域の生活に密着した社会資源の活用（牛乳販売店やスーパー、コンビニなど）、有償ボランティアの活用が求められます。

◆さわらび会の取り組み

さわらび会では、地域との連携を図るために「孤独死」予防の一環と

して、様々な地域啓発活動を行っています。

豊橋市の委託を受けて、さわらび地域包括支援センターが、十一月六日（土）に青陵地区市民館にて「認知症サポーター養成講座」を開催し、四十六名の方に参加していただきました。

認知症を発症しても、周囲の理解と気遣いがあれば、住み慣れた地域で生活をしていくことができます。認知症の症状や原因を学んでいただき、劇やレクリエーションを交えながら開催させていただきました。

また、十一月七日（日）・十四日



（日）には、東陵地区市民館、青陵地区市民館の各市民館祭りに参加させていただきました。



ここでは、体組成計を使用し、体内年齢を測定することで、現在の体の状態や今後の生活に対するアドバイスをさせていただき、各市民館で一〇〇名を超える方に参加していただきました。昨年も測定に来ていただいた方もお見えになり、測定結果が実年齢より若いという結果をご覧になって、自然と笑みをこぼされていました。

◆地域の力の活性化

「孤独死」を含め、様々な問題点

が山積みになった現状の中、さわらび会として何ができるかをよりいっそう深く考えていく必要があります。その一つの方向性として「地域の力」をどのように活性化していくか、そして「地域の福祉の力」をいかに構築していくかが大変重要になってきます。

現在、さわらび会では障害者担当会議、在宅医療福祉部会議、高齢者担当会議等の検討・調整の場があり、「孤独死」などの社会問題に対して連携を取りながら活動をしています。

また、高齢者の総合相談窓口として「さわらび地域包括支援センター（牛川町）」「福祉村地域包括支援センター（野依町）」があります。

今後、住み慣れた地域でいつもでも生活が送れるように、地域の皆様のお手伝いをしていきたいと思えます。（勝山）

高齢者の総合相談窓口

さわらび地域包括支援センター

☎0532-5413521

福祉村地域包括支援センター

☎0532-4515130

山本左近

F1韓国GP

難コースで魅せた! ベストな走り!!

だれもが未知のサーキット、水煙による視界不良、そして日没まで至る苦難のレース展開となった韓国GP。
そんな苦境をものともせず、山本左近選手はエキサイティングな走りを見せてくれた!



鈴鹿での勢いを引っ提げ
韓国へ!

夢への原点となった鈴鹿サーキットにおいて、まさにその夢の集大成ともいえる走りを母国のファンの前で見せてくれた左近選手。鈴鹿で得た、確かな勢いはドライバーにとって幾多の苦難を抱えることとなった韓国GPにおいても変わることなく、さらなる輝きを放って見せた。

未知のコースに挑む

今回のF1の舞台となった韓国インターナショナルサーキットにおいて、F1のサーキットを開催することは初めてであった。なにより、このコースのこれから落としが今回のF1GPであった。コース舗装が終了したのがレースのわずか2週間前ということも多く、関係者やレーサーが不安を感じる中、左近選手は、「誰もレースしたことのない、完全に新しいコースなので、とても興奮するようなレースになるでしょうね。母国の観客の前で今シーズンの

最高位を記録できたので、またいいパフォーマンスを発揮するため、モチベーションが高くなっています。」と語って未知のコースへ堂々挑む姿勢を見せてくれた。

予選で見せた最高な一周

コースが滑りやすい、縁石が低すぎる、コースに泥が出る、といったサーキットの不具合をものもしない最高な走りを予選で展開。フリー走行で得たデータを的確に読み取り、クルマの性能を大いに引き出すことにも成功し、チームメイトの上をいくスターティンググリッドを獲得した。

水煙、暗闇の中での ベストリザルト

鈴鹿の勢いそのままに最高の状態で決勝のスタートについた左近選手を待ち受けていたのは、今季最悪とも言えるレースコンディションであった。決勝レースの未明から降り始めた雨はレース開始となっても降りやまず、それが新しいサー



キットの路面に容赦ない影響を与えてしまう。前車が巻き上げる水煙は後続の視界をほとんどゼロにしてしまい、あまりにも激しい水煙により3周終了時点で赤旗が掲げられ一時レースが中断してしまう展開にもなった。さらに、その影響で、レース終盤になると日没を迎えてしまい今度は暗闇の中でのレースとなってしまう。その困難さは鈴鹿でも遺憾なく強さを発揮してきたレッドブル勢さえも飲みこみ、リタイアへと追い込んだほどであった。

そんな中、冷静にレース展開を見極めマシンの性能を最大限に発揮させたのが左近選手であった。激しいサバイバルレースの中、的確なタイヤのマネジメントに成功し、マシン性能に勝る他のチームと粘り強く渡り合い、総合15位という鈴鹿を上回るベストリザルトでフィニッシュを飾った。

レース後左近選手は、「今日、僕たちはチームとして今シーズン最高の結果を残せましたし、それについてはとても満足しています。レースを通じて、タイヤをうまくいたわることが

でき、いいペースで走れました。常に懸命な作業を続けてくれているチームと、僕を応援してくれるファンに感謝したいです」とコメントし、チームとしてのベストな結果に満足を見せていた。最悪な展開で最高の結果を残した左近選手の走り！これからますますスピードアップしていくことだろう。(鳥居)

● Photograph by Hispania Racing F1-Team



白露の
溜まりて薄
弓を成し



俳句漫

直筆の書で 季節を彩る

ジュゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之



白露の溜まりて薄 弓を成し

海拔千メートルの八ヶ岳山麓の秋は都会より約一ヶ月は早い。白露は秋の季語でもあり、また薄は秋の七草の一つでもある。この句はたまたま明け方に降った雨で、繊細な薄の葉と花薄を支えている茎までも白露が安座している様子を詠ったものである。白露とは真の意味では雨上がりの露状の水滴ではなく、所謂朝露のことだと思いが、時節が一致して水滴の形が朝露の様であれば両者を分け隔てするのは「もののあわれ」を解しない形式主義とでもいえるか？ 楽しむ俳句ならこれくらいのことはいいかないかとも思うのだが、たまたま写真に写っている薄の後方で咲いているのは萩のようである。奇遇ではあるが、萩も秋の七草の一つである。

Vol. 33 relay column さわらび会 のわ

珠藻荘 生活支援員
鳥居 浩平



昔から歴史が好きで、城やお寺など歴史遺産や名所をふらりとめぐるのが私の数少ない趣味となっております。東大寺の大仏や姫路城、京都龍安寺のお庭など、今にその姿を受け継がれている文化財を見て回ることもすごく楽しいのですが、私がもう一つ魅力に感じているものが「残っていない」歴史的文化財です。

たとえば、安土城。織田信長が築いた絢爛豪華だったといわれる誰もが知っているお城ですが、今残る姿というと、一部の石垣や門といったものぐらいです。ですが、今に残る部分が少ないからこそ、自分の中で豪華絢爛な天守閣を有する安土城の姿をあれこれ思い浮かべる楽しさがあります。もちろん、思い浮かべる姿は人によっても違うので訪れる人ごとに頭の中で描かれる安土城は違っています。身近な所だと他には、湿原の中、馬防柵がぼつーんと残っている長篠古戦場や関ヶ原の古戦場など。人それぞれの長篠の合戦や関ヶ原の合戦を思い浮かべることができると思います。

みなさんもぜひ、「の跡」、「の史跡」といったところで歴史ロマンの妄想をふくらませることを楽しんでみてはいかがでしょうか？

次回は、福祉村老人保健施設 ジュゲム 介護士長 田井優樹さんです。



●2010年10月14日・28日講義

福祉レクリエーションで現場を楽しく

◎講師：レクリエーションコーディネーター

福祉レクリエーション・ワーカー

豊橋レクリエーション協会会長

阿部 弘子

福祉の現場で欠かせないものになってきた、レクリエーション。レクを通して、人が集まって出会いが生まれ、一緒に楽しむことで笑顔が生まれます。さわらび大学で毎年好評の福祉レクの講座を、今年も阿部先生を講師に迎え、開講しました。今回は、いろいろな方法のジャンケンやお手玉を使ったレクなど、実践を中心に行いました。その中で、同じレクでも、高齢者や障害者など、それぞれの特性に応じて楽しめるように工夫することが一番大切だと教わりました。

また、時間の都合で当日はご紹介できませんで



したが、後日先生から、日野原重明さんの「生きるのが楽しくなる15の習慣」を教えていただきました。「人の気持ちを感ずる」「出会いを大切にすること、レクを通じて感じられることが多く書かれています。これもぜひ参考にしていただいて、毎日の生活の中にレクを取り入れ、楽しく笑顔で過ごしていきたいでしょう。(小笠原)



●受講者全員でレクを行っている風景

さわらび大学休講のお知らせ

12月～3月は、インフルエンザ等の感染症予防のため休講とさせていただきます。申し訳ありません。

ご利用者募集・正職員・パート募集
お問い合わせ先

●特別養護老人ホーム さわらび荘

☎0532-54-3501

●ご利用に関して 担当 藤原・渡邊

●職員募集に関して 担当 本部事務局 土井



地域密着型サービス事業所

ときわ

『常盤』開設に向けて

社会福祉法人さわらび会では、平成二十三年三月十四日のオープンを目指して、豊橋市宮下町に地域密着型サービス事業所「常盤」を建設中です。「常盤」の事業内容は以下の通りです。

◎小規模特別養護老人ホーム

定員二十九名 全室個室ユニット型

◎認知症対応型グループホーム

定員十八名

◎認知症対応型デイサービス

一日定員 十二名

さわらび会後援会寄附ご芳名

平成22年10月15日～11月14日

市内牧野町90	小松ウメ氏	5,000円
市内高師町字西沢106-5	浅倉茂氏	1,000円
東京都新宿区左門町9	財団法人国民保健会	10,000円
	野依校区自治会 会長 田中稔氏	5,000円
豊橋みなとライオンズクラブ 学校法人昌和学園 野依校区自治会 井上食品 日野米穀店 田京豆腐店 水野勲氏 中神尚人氏 志満津啓司氏		125,000円
市内野依町字西物草12	家具の街ヨコモランド	10,000円
新城市南畑74	光田屋(株)	10,000円
市内小池町36-1	共和印刷(株)	5,000円
市内高塚町神田68	田京敏明氏	5,000円
市内中岩田三丁目11-3	白井良治氏	1,000円
市内弥生町字西豊和9-9	林 昭氏	10,000円
市内萱町30	(株)中野新松商店	10,000円
市内瓜郷町前川50-1	鈴木弘生氏	10,000円
市内問屋町15-5	(株)スズケン	10,000円
市内東新町314	(株)日医工新和	10,000円
市内東田町154	濱竹田商店	10,000円
市内東脇三丁目1-17	森田由利子氏	10,000円
市内白河町100	中部ガス(株)	10,000円
市内神野埠頭町2	神野臨海(株)	10,000円
市内野依町字山中19-14	福祉村病院職員有志	3,000円
	さわらび会共同行事	176,828円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	14,000円
	匿名希望氏	10,000円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。
計 500,828円
現在までにご寄附いただきました金額は
834,652,852円

●福祉用具紹介のコーナー

no mo ca

自分らしい個性を大切に
したい最新のJIS規格認
証取得モデルの車いす

4色(レッド・グリーン・ブルー・
ホワイト)から選べます



要介護2以上の方なら
どなたでもレンタルが可能です。
価格はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先

福祉村指定居宅介護支援事業所 ☎(0532) 46-3566
さわらび指定居宅介護支援事業所 ☎(0532) 54-7377
福祉村病院訪問看護部 ☎(0532) 46-7511(代)
福祉サービス株式会社 ☎(0532) 66-1011

(福祉村指定居宅介護支援事業所 鳥山)

インド福祉村協会寄附ご芳名

平成22年10月11日～11月10日

静岡県榛原郡吉田町住吉5436-520	長谷川煥氏	1,000円
	匿名希望	10,000円
	匿名希望	10,000円
岐阜県恵那市大井町2711-136	佐藤勝巳氏	10,000円
岐阜県恵那市大井町2711-136	佐藤直子氏	10,000円
名古屋市中区新栄1-7-12	東海労働金庫	3,000円
名古屋市昭和区山花町50	医療法人 生寿会 理 事長 酒井宏氏	10,000円
	匿名希望	5,000円
名古屋市東区徳川2-15-18	柴田 惇氏	10,000円
名古屋市東区矢田1-13-16	亀山盛一氏	1,000円
名古屋市東区芳野1-10-16	鈴木健二氏	1,000円
名古屋市中区富士見町3-26	大山茂子氏	1,000円
名古屋市緑区ほら貝3-29	大山富美氏	1,000円
名古屋市東区東大曾根町22-24	橋口奈都子氏	1,000円
名古屋市北区大曾根3-16-37	柴田紀子氏	1,000円
名古屋市東区徳川2-15-8	堀木誠一氏	2,000円
名古屋市東区徳川2-16-43	鈴木彦一氏	5,000円
市内野依町字山中19-12	インド福祉村病院募金箱	4,603円
名古屋市東区大幸4-11-39	市村貴代子氏	1,000円
名古屋市北区上飯田南町4-1	前田淳子氏	1,200円
名古屋市守山区瀬古東1-1402	小川耕司氏	1,000円
名古屋市守山区小幡北1901	生田千寿子氏	1,000円
名古屋市名東区植園町1-4	西塚途恵氏	10,000円

募金方法(インド福祉村)

計 100,803円

- 振込先 郵便局 ゆうちょ銀行・振替口座
口座番号00830-2-65008 加入者名 インド福祉村協会
- 連絡先 軽費老人ホーム若菜荘 ☎0532-48-1138まで

＊お礼コーナー ありがとうございました＊

※印は豊橋善意銀行を通して

- ▼(株)デンソー (はあとふる基金) 様
ガス高速オープンレンジ・ステンレストンボラック寄贈(明日香)
- ▼花王様 洗剤・シャンプー寄贈(明日香)
- ▼一般社団法人日本レコード協会様 CDアルバム寄贈(明日香)
- ▼東京庵様 昼食招待※(あかね荘)
- ▼ヨコモランド様 チェア2脚寄贈(第二さわらび荘)

X'マスを飾る小物たち 明日香にて販売中!



明日香の手づくり X'マスリース500円～・ツリー300円～

除夜の鐘と安産の御詠歌

福祉村病院 副院長
伊莉 弘之

第六十一番香園寺から第六十二番天養山宝寿寺まで二キロ、徒歩三〇分、車では五分。

駐車場のすぐ横に山門がある。参道は短く正面には本堂があり、右手に大師堂が見える。庭は手入れが行き届いていて、小さいけれど気持ちがよい。鐘楼があり、鐘を撞こうということになった。お賽銭を置いて五人で綱を持ち、いーち、にーの、さーんで、ごおーんと鐘を撞いた。「楽しいね」と子供たち。「今日は一二月三〇日だから、明日なら除夜の鐘だね」と私。「だったら、一〇八回撞かないといかんね」と中二の娘。もっと鐘を撞こうとねだる子供たちを連れて本堂へ向かった。

弘法大師が巡錫した時に十一面観音を刻んで安置し、寺号を金剛宝寺から現在の宝寿寺に改めた。その頃このあたりの国司だった越智氏の夫人が難産で、大師に祈念を頼んだ。大師は宝寿寺境内の玉ノ井の水を加持して越智夫人に与えたところ、玉のような男子が生まれた。夫人は嬉しくて歌を詠んだ。その歌がこの寺の御詠歌だ。「さみだれのあとに出でたる玉の井は白坪なるや一の宮かは」この御詠歌を毎日三回唱えたと安産するといわれ、安産の観音様として信仰が厚いという。

この頃の宝寿寺は中山川の下流にあり、洪水の

被害を何度も受けた。以後焼失再興を繰り返し、一六三〇年頃には現在のＪＲ伊予小松駅付近にあった。大正一〇年に予讃本線が開通すると寺の中を汽車が走ることになるため、一〇〇メートルほど西にある現在の位置に移ったらしい。現在のＪＲ伊予小松駅のプラットホームあたりが昔の宝寿寺の山門だったという。

お参りを済ませると「また鐘をつこうよ」と小四の娘。「もどり鐘はついてはいけないよ」と母。「除夜の鐘はどうして一〇八回つくのかなあ」と中二の娘。

一〇八という回数には諸説があるが、その一つには、人間には、眼、耳、鼻、舌、身、意の六根があり、それぞれに好、悪、平の三種があるので三×六の一八の煩惱となり、それらが浄、染の二種にわかれて一八×二で三六の煩惱となり、それらに過去、現在、未来の時間軸が加わり三六×三で一〇八の煩惱となるという説がある。

自己にとらわれ、他者にとらわれ、小さな世界にとらわれているから本当の自由が得られず、煩惱ばかりが増えていき、とても一〇八では足りないように感じた。

編集後記

月まで届いてしまいいそうなの青い空。空色に映える深紅や黄金色の紅葉。落ち葉もカラカラと音をたて、まるで踊っているようです。秋もすっかり深まって参りました。

思えば十月半ば、汗ばむ陽気に、いつた秋は何時来るのだろうか？と過ごしていた日々でしたが、ほんの数日で晩秋の景色となりました。最近では凍てつく北風に、コートとマフラーが手放せなくなってきました。冬が密やかに訪れようとしています。冬、といえば胃腸風邪、インフルエンザの季節到来です。手洗い、うがい、マスク着用で春まで健康に過ごして行きたいものです。読者の皆様も今まで以上に体調を整えて頂ければ幸いです。

さて、今月号は先月号までのページレイアウトと少し変えてみました。特に医学講話の原稿と、緒に頂いた写真は何処に入れようかと迷った上でこのような形になりましたが、いかがでしたか？ご意見、ご感想をお寄せ頂ければ幸いです。では皆様、良いお年をお迎え下さい。

(谷)

【表紙写真】全長170cmの手作りクリスマスツリー(福祉村保育園)

充実した医療と福祉 みんなの力でみんなの幸せを

社会福祉法人 医療法人 さわらび会 理事長 山本 孝之

- 特別養護老人ホーム さわらび荘
☎(0532) 54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサ デ ローザ
☎(0532) 37-1209
- 軽費老人ホーム 若葉荘
☎(0532) 48-1138
- 障害者支援施設 珠蔭荘
☎(0532) 47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘
☎(0532) 48-2825
- 福祉村病院
☎(0532) 46-7511
- グループホーム白珠
☎(0532) 66-0082
- 障害福祉サービス事業所 明日香
☎(0532) 46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
☎(0532) 48-1032
- 福祉コンビニ(東雲町)
☎(0532) 69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
☎(0532) 38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
☎(0531) 24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎(0532) 46-7501
- 田原市障害者生活支援センター(市委託)
☎(0531) 45-3828

さわらび会

2010年12月1日発行 早版 第452号 毎月1日発行
(昭和62年2月21日第三種郵便物認可)
編集責任者・谷さゆり 印刷・共和印刷(株) 定価・100円